

# 令和4年度 学校評価報告書

島根県立益田高等学校

【合い言葉】 「 伸びる 伸ばす 」

【教育目標】 主体的に物事に取り組み、様々な他者とのつながりを通して自らを高め、未来を切り拓くことのできる生徒を育てる。

【教育方針】 (1) 生徒の進路目標を早期に確立させ、その実現を支援する。(進路保障)

(2) 基礎基本に基づいた確かな学力を育成する。(学力保障)

(3) 豊かな人間性を養い、これからの社会をたくましく生き抜く力を育成する。(資質保障)

【重点目標】

(1) 進路保障 ① よりよい社会を創るという目標を共有し、自己の将来の在り方・生き方を考える機会を通じて早期に進路目標を設定させ、進路実現に向かう意欲と態度を育てる。  
② 進路決定に必要な情報の提供や面談等により、生徒の進路実現に向けた意欲を喚起し、日々努力する習慣を身につけさせ、目標実現に向けて必要な学力を獲得させる。

(2) 学力保障 ① 習得・活用・探究を意識した授業改善に取り組み、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の学力を伸ばす。  
② 「わかる・力がつく」授業を行い、自主的・主体的に学習に取り組む態度を育成して、やりきる力と個に応じた能力が身につくようにする。  
③ スーパーサイエンスハイスクール事業（以下「SSH」）への取組を通して掘り起こした興味・関心・疑問を研究課題に深化させ、科学リテラシーと創造性の素地を育てる。

(3) 資質保障 ① 「凡事徹底」「日々改善」に心がけ、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、教育相談等をより充実させ、生徒が心身ともに健康な生活が送れるようにする。  
② 自他の権利を理解し、権利を行使する責任を自覚して互いに共感し共生する心と力を育てる。  
③ 学習、部活動、生徒会活動、学校行事等に主体的、積極的に取り組ませることにより「益高生に身をつけさせたい資質・能力」を育成する。

領域	中期目標	短期目標	成果指標	具体的な取り組み・達成状況・自己評価	学校関係者評価・意見	次年度へ向けての方針・改善策	
生徒指導・生徒支援	豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会や各種委員会をできるだけ主体的に活動させることで生徒の資質を伸ばす。</li> <li>・ホームルーム活動を通して望ましい人間関係を構築できる力を育てる</li> <li>・自他の権利を理解し、お互いに思いやり共生する心の育成に取り組む。</li> <li>・支援が必要な生徒に対して、担任、関係教員関係機関と連携して支援に努める</li> <li>・安心安全で快適な寮生活を保障する</li> </ul>	教職員の自己評価 3.0以上(4段階)を目標とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部を中心とした学園祭企画運営は生徒の主体的な姿勢が多く見られた。</li> <li>・PTAとの協働活動（七夕飾りなど）は生徒にとって大きな喜びであった。</li> <li>・学校行事やホームルーム活動を通して、学校生活の基盤であるクラス内の人間関係構築につながる支援を行った。</li> <li>・安全安心アンケートを実施し、いじめ等の早期発見に向けての取り組んだ。</li> <li>・生徒アンケート「友達を大切に思う」「大切に思われている」の数値は高い。</li> <li>・生徒観察、情報共有丁寧に行い、必要に応じて個別面談、ケース会議を行った。</li> <li>・外部（SC、病院、その他関係機関）との連携も積極的に進めている。</li> <li>・寮での学習に対する意識、身の整理整頓、規則遵守などに関してまだまだ課題が見られるが、年度後半は改善傾向にある。</li> </ul>	3.4 3.3 3.3 3.7 3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き生徒の自立心、協働性、行動力向上につながる支援を教職員全体で心掛けたい。</li> <li>・ホームルーム活動を活用し、ソーシャルスキルを学ぶ機会の創出を検討したい。</li> <li>・引き続き丁寧な個別面談や生徒観察を通して課題を抱えた生徒への対応を組織的に取り組んでいきたい。また、必要に応じて保護者や外部専門機関の協力的体制も確保し進めていきたい。</li> <li>・寮内の学習拠点となっている学習室の利用方法を再確認する。</li> <li>・自室の整理整頓など現在の整った環境を維持したい。</li> <li>・生徒会の委員会組織の活動をベースに、生徒が主体的に規範意識を高める取り組みを設定する。</li> <li>・部活動終了時間、下校時間を守り、部活動と学習の切り替え、メリハリのある活動となるよう支援していく。</li> <li>・生徒アンケートをもとに端末利用状況を整理し対応を検討していきたい。</li> </ul>	
	社会を生き抜く力の育成	規範意識の定着 基本的な生活習慣の確立 社会性協働性の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣を確立し、規則正しい生活の重要性を理解し行動できる資質の育成を図る。</li> <li>・部活動の充実を図り、自己管理能力を育成する</li> <li>・部活動、学校行事への積極的な参加を支援する</li> <li>・SNSについての啓発や指導を行い、情報モラルを高め、ICTを適切に活用する力を育成する。</li> </ul>	教職員の自己評価 3.0以上(4段階)を目標とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の生活時間記入により、規則正しい生活の重要性を意識させた。</li> <li>・落ち着いた生活態度であるが、端末の使用ルールなどに課題もある。</li> <li>・生徒アンケートでは部活動に満足している生徒は多い。</li> <li>・また、勉強との両立を課題にあげる生徒は一定数いる。</li> <li>・SNSの扱いについて、外部講師を招いての講演会を実施した。</li> <li>・スマホや端末使用のルールを守れない場面が一部に見られた。</li> </ul>	3.1 3.3 3.3 3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各大会での部活動の活躍は評価できる。今後も期待している。</li> <li>・中学生にもどんどんアピールしてもらいたい。</li> </ul>
学習指導・進路指導	確かな学力の推進	基礎・基本の定着 知的応用力の育成 主体的な学習態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の育成を図り、学習習慣の定着と学力向上に向けた取り組みを適切に行う。</li> <li>・常に授業改善を意識し、指導力向上の施策を行い、教科指導の充実を図る。</li> <li>・各学年の補習を計画的、効果的に実施し、学力強化を図る。</li> <li>・図書館がよりよい学習の場となるよう環境を整え、必要な情報発信をする。</li> </ul>	教職員の自己評価 3.0以上(4段階)を目標とする  生徒による授業評価(各学期末実施)を参考とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣を定着させるために、生活時間記録や学習時間調査を効果的に活用した。内容の理解と定着につながる予習復習、学習の習慣化に課題をもつ生徒が見られる。</li> <li>・1、2学期に授業公開旬間を設定し、授業公開と改善に取り組んだ。</li> <li>・また、生徒による授業評価アンケートを実施した。</li> <li>・土曜特別補習、3年平日補習、長期休業期間中の補習を実施した。</li> <li>・大学入試を想定した問題を精選して、実施している。</li> <li>・探究活動で有効に利用できた。また図書新聞による本紹介、展示コーナーの設置を行った。</li> </ul>	3.2 3.3 3.1 3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の学習時間調査(「キセキ」の記入)を継続し、活用したい。</li> <li>・一人一台端末、電子黒板などICT機器を活用して、生徒相互の意見交換や遠隔授業など、授業の質の向上をすすめてほしい。</li> <li>・また、ICTを活用した授業のスタイルをもっと外に向けてアピールすると良い。</li> <li>・要望に沿って学習に必要な書籍を整備していきたい。</li> </ul>
	進路目標の実現	職業観の育成 進路目標の確立 能力・適性の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を見通した進路指導計画の下、生徒との面談を通して適切な情報提供と進路目標実現へ向けての支援を行う。</li> <li>・進路講演会・説明会、研修会を通して、進路意識の高揚に努める</li> <li>・SSH事業の実践を通して、生徒の資質・意欲・能力の向上を図る</li> <li>・総合的な探究の時間において生徒の自己理解と表現力を高め、卒業後の生き方を考えさせる</li> </ul>	教職員の自己評価 3.0以上(4段階)を目標とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各担任による複数回の面談を実施し、学習時間調査、進路希望調査などの資料をもとに、個々の生徒の進路実現の支援に努めた。</li> <li>・アンケート結果に見られる生徒の個別面談に対する満足度は高い。</li> <li>・学年集会、進路説明会の開催や進路だよりの発行を通して進路情報の提供を行った。</li> <li>・保護者対象の企業訪問バスツアーを実施した。</li> <li>・コロナ禍で実施できなかった関東研修、関西研修を2年生を対象に実施した。</li> <li>・本校生徒だけでなく、地域の小学生中学生を対象に多くの活動を実施した。</li> <li>・探究活動において教員によるメンター制を導入し、円滑な活動が行えるよう支援体制を改善した。</li> </ul>	3.3 3.2 3.4 3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の進路実績が良かったことも含め、これまでの進路実績を外部、特に中学生に向けてPRしてもらいたい。</li> <li>・総合型選抜、学校推薦型選抜ともに全国的に増えている中、島根大学など地元の大学での入試に向けての取り組みもしっかり取り組んで欲しい。</li> <li>・SSHでの様々な活動を通して自己管理(マネジメント)能力や自己肯定力を高めることにつなげてもらいたい。</li> <li>・生徒の進路目標実現に向けて、生徒との個別面談を通して丁寧な進路指導、入試の多様化と新課程入試の研究をふまえた適切な情報提供、授業、補習、模試など確かな学力の育成につながる各取り組みを引き続き全校体制で実施していきたい。</li> <li>・課題研究、課題探究での学びを大学への学びにつなげることを意識したテーマ設定を増やしたい。</li> <li>・次年度も引き続き課題探究におけるメンター制度を継続し、よりよい教員のかかわり方を追求したい。</li> </ul>
学校運営	統括 環境整備 生徒募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働きやすい職場環境の構築</li> <li>・学びやすい学習環境の構築</li> <li>・関係機関との連携</li> </ul>	教職員の自己評価 3.0以上(4段階)を目標とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、合い言葉「伸びる 伸ばす」のもと、重点目標達成に向け、授業、学校行事、部活動、SSH事業、進路行事など全教育活動を通して、全教職員が努力した。</li> <li>・各分掌、学年部と連携相談しながら推進できた。</li> <li>・コロナ禍での制約もあるが、PTA役員を中心に多くの保護者に協力、支援をもらっている。</li> <li>・学級別懇談会、生徒会執行部とのコラボ企画は好評であった。</li> <li>・学校便り「いわみの」隔月発行、ホームページ、Instagramによる情報発信を行った。</li> <li>・毎学期の安全点検、学校環境衛生検査を通して、環境整備の必要箇所を把握し改善に取り組んでいる。</li> <li>・限られた予算を適切に執行できるよう努めるとともに、各分掌と連絡を密にしてバランスの取れた予算執行を心掛けた。また必要に応じて県教委にも要請を行った。</li> <li>・オープンハイスクール参加の中学生アンケートでは一定の評価数値が得られた。</li> <li>・また、新事業「益高の学び体験」を実施した。</li> </ul>	3.4 3.5 3.5 3.4 3.3 3.5 3.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のアンケートによると、満足度の高さがうかがえる。益田高校の強み、アピールポイントとして欲しい。</li> <li>・引き続き教職員が一丸となって生徒一人一人の支援指導に努め、教育目標達成に向けて尽力したい。</li> <li>・引き続き校内の各部署と連携をとりながら円滑な運営に努めたい。</li> <li>・次年度も保護者の意見を反映した双方向のPTA活動を継続したい。</li> <li>・Instagramによる情報発信について受け手のニーズに沿って改善を図りたい。</li> <li>・引き続き学習環境の整備が必要な個所の把握に努め、事務部と連携をとりながら整備の優先順位を明確にしたい。</li> <li>・事業予算の執行については各分掌と連携しながら進めたい。また、施設設備の大規模修繕工事は安全管理に十分配慮が必要である。</li> <li>・中学生のニーズに合う内容を検討し、効果的なPRを進めていく。</li> <li>・R6推薦選抜、R7以降の総合選抜の進め方について検討を行う。</li> </ul>	